

私たちは災害に備えて 何をしておく？

～能登半島地震の現地支援を通して感じた事 その後の取り組み～

社会福祉法人 とともに福社会 理事長 兼
生活介護事業所 ドリームセンターともに
管理者 武田 仁

1.法人紹介・自己紹介

【法人紹介】

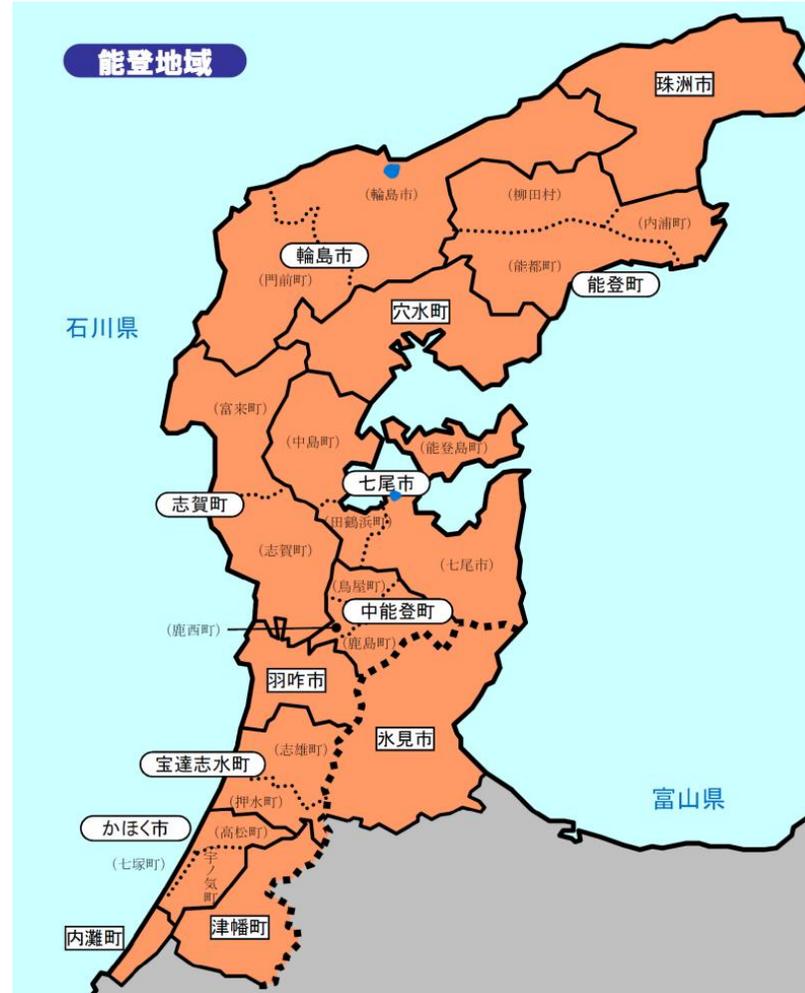
- * とともに福祉会は、平成9年3月に社会福祉法人が認可され、平成10年1月に認可施設とともにハウスが開所し、現在では、春日部市を中心に、大きく分けて、日中生活部門、地域生活部門、暮らし部門、相談支援部門、児童療育部門の5つの部門で運営を行っております。

【自己紹介】

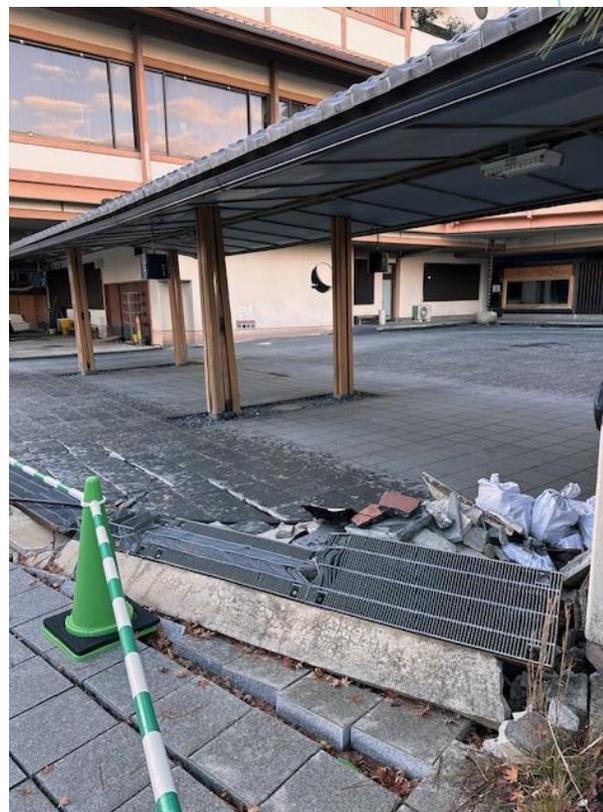
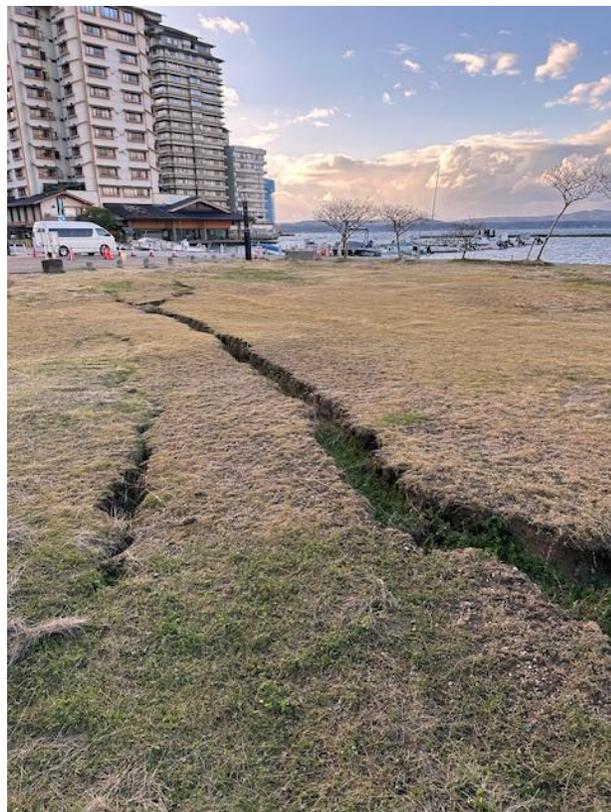
- * 昭和55年3月29日（45歳）青森県弘前市 生まれ 埼玉に20年ほど住んでいます。
- * とともに福祉会 入職18年 生活介護事業所とともにハウスの生活支援員として入職。
- * 令和7年6月の理事会・評議員会を経て、ともに福祉会理事長に任命される。
- * 令和4年7月から、きょうされん埼玉支部役員に任命。
- * きょうされんからの呼びかけで、令和6年12月8日～1週間、能登半島地震被災地支援に参加。

2.能登半島地震 支援時で見た・聞いたこと

- ・七尾市の和倉温泉に支援拠点があります。支援拠点から1時間程度で、輪島市の朝市があった場所に行くことができます。
- ・1月の地震被害に加え、9月の大雨災害で、七尾市から輪島市へ向かう道の途中では、土砂崩れの起きた現場が沢山ありました。道路も震災当時よりだいぶ良くなったと聞きましたが、至る所が凸凹です。特に歩道の整備が進んでおらず、視覚障害の方は、怖くて歩けない。そのために、仕事を失った方もいるそうです。
- ・珠洲市など、奥能登と呼ばれる地域ほど、ライフラインの復旧が進まない。津波被害も大きかったそうです。



3.七尾市 和倉温泉周辺 (R6.12.8)



4. 輪島市 周辺 (R6.12.9)



5. 珠洲市 周辺 (R6.12.9)



6. 珠洲市 すず椿 理事長のお話

* 令和6年1月1日16:10 地震発生

電話は使えず、LINEは繋がった。

安否確認は職員各自が、元々使っていたグループLINEに報告した。

仲間が避難所において、たまたま職員と一緒にいた方もいた。

GHの仲間は、消防署に1泊させてもらった。

* **AAR (難民を救う会) が1月5日に来て、初めて支援物資を届けてくれた。**

3月10日まで電気・水が来ない状況で、全部支援物資で生活した。

* 1月16日 理事長から安否確認 仲間59名中、58名の安否を確認。

1月17日連絡の取れない方の安否確認ができた。

2月5日～営業再開。再開当初は18名通所。

精神障害の方は薬が切れた方もおり、入院となった。

利用者家族からは、水が出ない中、食事提供してくれたことに感謝された。

* **1番助かったのは？**

・ 避難所には食べ物が届くが、**GHの利用者には食事が出ない。**

支援物資は、すぐに食べられる物が助かった。(ラーメン・パピライスなど)

おなか一杯食べられることはなかった。

・ **職員家族のついで、GHへ仮設トイレを設置できた。トイレで固めるものはたくさん使う。**

7.能登半島地震 直接支援を通して

【個別での移動支援】

- ・ 自宅の取り壊しが決まっている方の、市役所までの送迎。当日は公営住宅等一時使用期限延長申請書の提出だったが、高齢の方には、大変ややこしい行政からの書類が複数。社協の方々も協力し、親切に説明しているが、かなり対応が難しい。

(提出期限がある書類も)

高齢でペースメーカーを入れているため、体力的にもしんどい様子も見られた。(団地3階が仮住居)

【施設支援】

- ・ ボランティアに何をやらしてもらおうか？職員不足の中ではあるが、週替わりで来るボランティアに説明する手間が、負担になっている様子があった。



8. 輪島KABULET 施設長より

- ・ R6能登地震からもうすぐ一年が経過する中で、輪島市内の建物の60%が公費解体で更地になって行くと伺っています。
まだまだ復興・創生へは長い道のりとなりますが、全国の皆さんから応援をいただき前に進んでいきたいと思っております。

能登地震の報道が少なくなっていく中で、応援いただけることが僕たちの勇気になっています。是非、今後ともどうかよろしくお願いいたします。

R6.12.25に上記のメールを直接いただきました。



9.きょうされん経営管理者研修（R7.1.25）

* ななお・なかのと就労支援センター 職員からの報告

- ・ テレビ・ラジオのみで情報がなく、自身の子供が不安がり、身動きが取れず、安否確認を開始したのは1/3~となった。
- ・ 断水、ガソリンがない事もあり、自宅訪問はできない。
- ・ **避難所で障害のある方は、「出ていけ」と直接言われた方もいる。**
- ・ 自宅待機の方は、給水車がいる所まで取りに行く必要があるが、取りに行けない人もいた。
- ・ 備蓄をたくさん持っていたが、機能しなかった。分散しておく必要があった。
- ・ 商工会議所と連携していたため、すぐに物資がもらえた。
- ・ 連絡網の確認を改めてする必要がある。
- ・ 就労Aは、和倉温泉の清掃が仕事だったが、すべて無くなる。災害廃棄物の仕分け作業を仕事として7月末までやった。

10.見て聞いて感じた課題

- ①安否確認方法 → 電話以外の複数の手段・方法・報告内容をどうするか？
- ②人手不足 → 職員自身も被災者。より安全な地域に引越し。受け入れ困難。
- ③報酬減 → 開所再開の目途が立たない。利用者の引越しで、利用率ダウン。
- ④建物・備品の修繕 → ライフライン復帰の目途が立たない。空調設備の破損。
- ⑤衛生面の確保 → 生活用水の不足・感染症が蔓延
- ⑥利用者は避難所にいられない。さらに、福祉避難所は、ほぼ開所できない。
- ⑦利用者は避難所まで行けない。GHには物資は届かない。
- ⑧薬の不足。（医療を必要とする要配慮者が多くいる）
- ⑨余震への恐怖。（能登地域は、稼働してはいないが志賀原発の恐怖もあった。）
- ⑩液状化現象。道路の寸断。交通機関の乱れ。物流の停止。
- ⑪行政・地域連携（災害時要配慮者避難支援マニュアルの共有 R5.3 埼玉県発行）
- ⑫市町村によって、対応が異なる。
- ⑬福祉避難所を開設した場合の書類作成の手間

11. できるところから準備を

【自分の職場の強み・弱みの把握（例）】

- ・ 配慮食（アレルギー対応食・ミキサー食など）の用意がない。
- ・ 災害時用の備蓄・備品置き場が少ない。

【事業所が行政・地域の協力を作る取り組みは？（例）】

- ・ 行政などが災害研修を開催して、地域の方と顔の見える繋がりを作る機会を設ける。
- ・ それぞれの強み・弱みを共有して、互いをカバーしあえる関係作りはできないか？

【特に行政・地域の方々と一緒に考えたいこと】

- ・ 避難所まで行けない要配慮者の対応（在宅者・GH利用者）
- ・ 避難所を「出て行け」と言われてしまった要配慮者の対応
- ・ 薬が不足してしまった（不足しそうな）要配慮者の対応
- ・ 空調設備が破損した時の対応（寒さ・暑さ対策）

12.きょうされん 災害学習会 R7.2.7

*きょうされん埼玉支部 WA会主催 災害学習会

※WA会とは？

利用者の方が主となり、きょうされん埼玉支部の部会として位置づけられています。

災害・防災について

～命を守るため 今できることは～

というテーマで、開催されました。100名以上が参加し、災害時、要配慮者となってしまう利用者の方々が、非常食作り・試食、段ボールベッドや段ボールトイレの組み立てなどを体験する機会となりました。



13. 春日部市福祉避難所開設・運営訓練 R7.3.5

* 春日部市自立支援協議会の呼びかけで、
春日部市防災課・障がい者支援課も参加し開催。

これまで、福祉避難所の協定を結び、毎年、受け入れ人数、備品の確認を書類を通して市とやり取りしているだけの状況でしたが、第1回目の開催となりました。福祉避難所開設に至るまでの説明やロールプレイングで、受入れ対応訓練を実施しました。訓練の中では、受入れ時の要配慮者の情報不足が懸念材料としてあがりました。改善点はまだまだあると思いますが、互いを知るとてもいい機会をいただきました。



14.R7.10.29近隣の自治会長さんを施設に招いて

*開催趣旨

地域の皆さまと共に安心・安全なまちづくりを進める一環として、施設見学会を開催しました。見学会では、当事業所はどのような方が利用しているか？まずは、日頃の事業所内の活動を通して、障がいのある方の特性等を知っていただく機会とさせていただき、災害時に地域と連携できる仕組みについて情報交換を行いたいと考えています。

*参加者：近隣3地域の自治会長さん・春日部市職員・埼玉県職員
地域センターとともに職員

*実施内容：①当事業所（法人）の概要
②当事業所を利用されている方の障害特性など
③地域連携について意見交換（グループディスカッション）
※ドリームセンターとともに利用者也交えて

14－②R7.10.29 施設見学会について

*開催前の準備

- ・春日部市危機管理防災課の職員より、施設近隣の5つの自治会長を招くとどうかと？ご提案いただき、連絡先の取得方法を教えてもらい、直接、自治会長へ連絡する。自治会長は、高齢の方が多く、足が悪く当施設まで行けない方や、ここの自治会では、障害のある人はいない。把握していない。全ての家庭が自治会に加入している訳ではない。今のところ自分の自治会にはそのような人はいないから必要ない。と、電話連絡で打診した際、自治会長の温度差を感じる部分がありました。そのような中でも、「是非」と来ていただけたのが3人の自治会長さんでした。

*グループディスカッション（能登支援やこれまでの研修訓練受講を報告）を通して

- ・利用者の方から、「避難所から出ていけ！」と、言われてしまったら、他にいく所もなく、怖いです。と、率直な意見をいただきました。そうならないためにも、日頃の顔の見える繋がりが、障害への理解に繋がると改めて感じました。

14－③R7.10.29 施設見学会について

*見学会を終えて

- ・春日部市から、施設近隣の病院が災害訓練を行う情報をいただきました。
自治会長からも、地域の防災訓練を行う際は、声をかけてもらいたいとお願いし、快く了承していただいています。
今年度はどちらも予定が合わず、参加できませんでしたが、そうしたイベントに顔を出し、利用者のことや私たち福祉職員のことも知っていただく機会にできたらと考えています。

*今後の展望

- ・将来的には、地域の保育園や高齢者施設、学校、地域住民と共同で防災について考えられる機会や訓練が行えると、いざという時に役に立つと考えています。
一人ではとても出来る事ではありませんが、まずは焦らず、日々の活動（行事や販売活動）の中で、地域の皆さんに障害のことを知っていただき、障害があってもなくても、地域で安心して暮らせるよう、ともに福社会としては目指しています。

ご清聴ありがとうございました



ドリームセンターとともに
ブログ

